

### 第三者評価結果

事業所名：社会福祉法人常照会 慈光保育園

#### 共通評価基準 (45項目)

#### I 福祉サービスの基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
【1】 I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<b>&lt;コメント&gt;</b> 理念と基本方針の周知は図られているが、共有の深度に伸び代が認められる 本園では、理念および基本方針について、重要事項説明会や保育参観、保護者向け講演会などを通じ、保護者へ伝えようとする姿勢が確認できる。また、職員に対しても園内掲示や職員会議、園内研修の場を活用し、理念を基盤として考える機会を設けている。一方で、理念や方針が日々の判断や行動にどのように結びついているかについては、受け止め方に差が生じる余地も認められる。今後は、保育実践の具体的な場面と理念を結び付けて共有する工夫を重ねることで、理念が共通理解としてより一層浸透していくことが期待される。	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者評価結果
【2】 I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
<b>&lt;コメント&gt;</b> 地域環境の変化を踏まえた将来志向の経営意識が認められる 本園では、園児募集のみに依拠するのではなく、地域や市内の人口推移、今後の保育ニーズといった外部環境を踏まえながら、事業経営を考えようとする高い意識が認められる。ヒアリングからは、経営悪化を未然に防ぐため、複数の視点から検討を重ねてきた姿勢もうかがえる点は評価できる。一方で、こうした経営意識を、日々の運営判断により活かしていく観点からは、例えば定員充足状況や人件費の推移など、身近な数値と結び付けて整理していくことで、経営状況をより共有しやすくすることが期待される。	
【3】 I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
<b>&lt;コメント&gt;</b> 経営課題を共有し、組織的に対応を進める体制が整えられている 本園では、年度初めの職員会議や理事会・評議員会等を通じて、経営環境や保育内容に関する現状認識を関係者へ共有し、共通理解を図ろうとする姿勢が確認できる。経営上の課題についても、園内および法人内の会議体で説明され、情報を閉じずに伝える体制が整えられている。一方、課題として示された内容と、それに対して実施している具体的な取り組みとの関係性については、整理の余地が認められる。今後は、現在行っている取り組みを整理し共有することで、課題意識がより明確となり、組織としての対応力向上が期待される。	

#### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者評価結果
【4】 I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
<b>&lt;コメント&gt;</b> 社会情勢の変化を踏まえた中長期的視点での計画見直し意識が認められる 本園では、中期計画を運営の指針としており、社会情勢や園児数の動向、収支状況の変化を踏まえ、計画内容の見直しが必要であるとの認識を持っている点は評価できる。中・長期計画は、単年度では達成が難しい目標を掲げ、将来像と現在との差を段階的に整理できる点に意義がある。一方、急速な環境変化が生じている現状においては、長期間の計画維持が難しい場合も想定される。計画を都度見直す方法も一案であるが、例えば3年または5年を計画期間とした中長期計画の再構築を検討することも、実効性の高い計画運営につながると考えられる。	
【5】 I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
<b>&lt;コメント&gt;</b> 中・長期計画と単年度計画の連動性に整理の余地が認められる 本園では、中・長期計画を主として経営面の視点から整理しており、単年度計画との関係について十分ではないと園は認識している。単年度計画は中・長期的な方向性を現場レベルの具体的な取り組みに落とし込む役割を担うものであることから、両者のつながりを意識した整理には伸び代が認められる。例えば、中・長期計画に示された経営上の課題を、当該年度の重点目標や保育運営上の工夫として位置付けることで、計画全体の一貫性が高まり、職員間での共有や理解の促進につながることが期待される。	

(2) 事業計画が適切に策定されている。

【6】 I-3-(2)-①  
事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。

b

<コメント>

事業計画の作成と運用における役割分担が整理されている

本園の事業計画作成は主に園長が担い、園全体の方向性や経営的視点を踏まえて整理されている。一方で、計画に基づく具体的な取り組みの実施や、その評価・見直しの過程には職員も参画しており、日々の保育実践を踏まえた振り返りが行われている。ただし、計画の評価結果や見直しの意図が、どのように次の計画や行動に反映されているかについての職員間共有には工夫の余地が認められる。今後は、作成と運用の役割を踏まえ評価・見直しの整理を共有することで、計画への理解が一層深まり、組織的な実行力の向上につながることを期待される。

【7】 I-3-(2)-②  
事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。

b

<コメント>

事業計画を保護者へ伝え、理解促進を図ろうとする姿勢が認められる

本園では、重要事項説明会の機会を通じ、年間の主な行事予定や保育の方向性について保護者へ説明しており、事業計画の周知と理解促進が図られている。特に、入園時に園運営の全体像の共有は、保護者の安心感に繋がっている。一方、事業計画に変更が生じた際には、その背景やねらい、進捗状況等について、保護者に丁寧に伝える機会を意識的に設けることで、計画への理解や納得感がより一層高まると考えられる。今後、計画変更時には園だよりや保護者会等を活用した補足的な情報提供を行い、園運営への信頼をさらに深めることが期待される。

4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者評価結果

【8】 I-4-(1)-①  
保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。

b

<コメント>

研修を軸とした保育の質向上が組織的に定着している

本園では、年間テーマを設定した園内研修を中心に、年間・月・週の保育計画やドキュメンテーション、振り返りノート等を活用し、保育の質向上に向けた取組を組織的に進めている。研修内容は日々の実践と結び付けられ、職員会議等を通じて共有されており、継続的な学びの仕組みが機能していることが確認できる。今後は、研修で得られた気づきや成果が、どのような保育場面の変化につながっているのかを整理し言語化することで、現在の質の高い保育を組織全体の強みとして一層明確にしていくことが期待される。

【9】 I-4-(1)-②  
評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。

b

<コメント>

評価結果を踏まえた振り返りと改善の積み重ねが行われている

本園では、行事や会議、研修後に振り返りの機会を設け、その内容をもとに改善の検討を行っている。行事の振り返りや研修報告書、会議感想等からは、実践をそのままにせず見直そうとする姿勢がうかがえ、保育の質向上に向けた意識が組織内に共有されている点は評価に値する。今後は、振り返りの中で挙げた視点が、その後の保育や行事にどのように活かされたかを職員間で確認することで、改善の積み重ねがより明確となり、園全体としての学びと質の向上が一層深まることが期待される。

II 組織の運営管理

1 管理者の責任とリーダーシップ

(1) 管理者の責任が明確にされている。

第三者評価結果

【10】 II-1-(1)-①  
施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。

a

<コメント>

施設長の役割と責任を言語化し、職員理解を促している

施設長は、規程や規約を随時確認できる環境を整えるとともに、会議や園内研修の場を通じて、自らの役割や責任について職員へ明確に伝えている。また、不在時の判断や役割分担についても整理されており、日常運営における混乱を防ぐ工夫がなされている。一方で、施設長としての判断基準や責任範囲が、どのような場面で発揮されているのかについては、職員によって受け止め方に差が生じる可能性もある。今後は、具体的な事例を通じて役割を共有することで、施設長の責任への理解が深まり、組織運営の安定に繋がることが期待される。

<p>【11】 II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p>	<p>b</p>
<p>&lt;コメント&gt; 法令遵守意識を高めるための継続的な学びを重ねている 本園では、法令遵守に関する研修や勉強会等を通じ、制度改正や社会情勢について幅広く情報収集を行い、必要な知識の更新に努めている。また、会議や園内研修の場を活用し、職員に対して法令遵守の重要性を繰り返し伝える姿勢が確認でき、組織として一定の共通認識が形成されている点は評価できる。一方で、各法令が日常の保育実践や判断にどのように結び付くかについては、理解の深まり方に差が生じる可能性もある。今後は、具体的な事例を通じ法令と現場対応を結び付けて共有することで、法令遵守意識の一層の定着が期待される。</p>	
<p>(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。</p>	
<p>【12】 II-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt; 日常の実践を丁寧に捉え質向上へ導く指導力を発揮している 園長は、職員から提出される記録や報告に必ず目を通し、保育実践の中で評価すべき点や留意すべき点を的確に捉えようとする姿勢が確認できる。特に、気づきや課題をそのままにせず、必要に応じて職員会議や園内研修のテーマとして取り上げ、組織的な学びにつなげている点は評価できる。このような関わりは、職員の保育を振り返る意識を高め、質の向上に向けた共通理解の形成に寄与している。一方で、判断の意図や背景を言語化し共有することで、施設長の指導性がより明確となり、職員の主体的な取組をさらに後押しすることが期待される。</p>	
<p>【13】 II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt; 多角的な視点を踏まえ経営改善に指導力を発揮している 園長は、運営や経営状況、保護者アンケート結果、職員からの意見や感想など、多様な情報に目を向けながら、経営改善や業務の実効性向上に取り組んでいる。特定の視点に偏ることなく状況を把握しようとする姿勢は、園運営全体を安定的に支える基盤となっている。また、現場の声を踏まえて改善を検討する姿勢は、職員の参画意識を高める点でも評価できる。今後は、こうした検討内容を整理し、改善の意図や方向性を共有することで、取組の効果がより明確となり、組織としての実行力向上につながることを期待される。</p>	

## 2 福祉人材の確保・育成

<p>(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。</p>		<p>第三者評価結果</p>
<p>【14】 II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p>	<p>b</p>	
<p>&lt;コメント&gt; 園内研修を基盤とした人材確保・定着に向けた取組を進めている 本園では、保育の質を支える人材の確保と定着を重視し、外部講師を交えた園内研修を継続的に実施している。職員一人ひとりの状況や課題に応じた学びの機会を設けることで、専門性の向上と成長意欲の維持につなげようとする姿勢が確認できる。こうした取組は、結果として人材定着を下支えする要素となっている。一方で、人材確保や定着に関する取組全体を、計画として整理し共有する点には伸び代が認められる。今後は、研修やキャリアアップ支援を含めた取組を計画的に位置づけることで、より安定的な人材確保につながることを期待される。</p>		
<p>【15】 II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。</p>	<p>b</p>	
<p>&lt;コメント&gt; 人事制度の透明性を確保し、職員理解を促す管理が行われている 本園では、理念や処遇、辞令について年度当初に職員一人ひとりへ直接説明・交付しており、人事に関する考え方や基準を明確に伝えようとする姿勢が確認できる。また、就業規則や給与規程等を随時閲覧可能とし、制度面の透明性確保にも配慮している点は評価できる。一方で、各制度がどのように職員の役割や期待像と結び付いているかについては、整理・共有の余地も認められる。今後、人事に関する考え方を体系的に示すことで、職員の理解と納得感がより一層高まることを期待される。組織の安定にも寄与すると考えられる。</p>		
<p>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>		
<p>【16】 II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p>	<p>a</p>	
<p>&lt;コメント&gt; 職員の休息と相互支援を重視した働きやすい職場環境づくりが実践されている 本園では、職員が平等に休暇を取得できるよう配慮し、互いに交代や代行を行いやすい職場環境づくりに取り組んでいる。勤務表や休暇管理簿等を通じた運用に加え、感謝や思いやりを大切にす風土づくりを重視している点は評価できる。現地確認においても、十分な広さを備えた休憩室や職員用シャワールームが整備されており、安心して心身を休められる環境が確保されていた。こうした労働環境への投資は、職員の安定した就業を支え、結果として保育の質向上につながるものといえる。今後も取組を継続し、良好な職場環境の維持が期待される。</p>		

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
[17] II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		a
<b>&lt;コメント&gt;</b> 職員との定期個別面談を基盤とした学びの機会確保が図られている 本園では、職員一人ひとりととの個人面談を定期的に行い、目標設定や進捗確認、保育実践に関する対話を通じて、学びの機会を確保している点は評価できる。年度初めに設定した個人目標を軸に、悩みや課題を共有しながら支援を行う姿勢は、職員の状況に応じた育成につながっている。一方で、こうした面談を通じて得られた学びや気づきを、研修機会や園全体の育成方針と関連付けて整理することで、教育・研修の機会がより計画のかつ持続的なものとして展開され、組織的な人材育成の深化が期待される。		
[18] II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		a
<b>&lt;コメント&gt;</b> 実習受入れを軸に教育方針を具体化し人材育成を実践している 本園では、実習生受入れを教育・研修の重要な機会と位置づけ、事前オリエンテーションから実習後半の実践保育まで、段階的な指導体制を整えている。理念や服務、保護者対応を丁寧に伝え、日々の振り返りを通じて疑問や不安を早期に解消しようとする姿勢は、育成方針が実践に落とし込まれている表れである。前年度は保育実習生や高校生体験学習を多数受け入れ、将来の保育者や保護者育成を見据えた地域貢献としても意義深い。今後は、こうした実習指導の考え方を職員研修にも整理して位置づけることで、教育方針の明確化が期待される。		
[19] II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。		b
<b>&lt;コメント&gt;</b> 外部研修と職員の主体的な学びを尊重した職員育成の取組が行われている 本園では、外部講師を招いた園内研修を年間6回計画的に実施し、職員一人ひとりの専門性向上に向けた育成の機会を継続的に確保している点は評価できる。また、より深く学びたいという職員の主体的意思を尊重し、時間や環境面での配慮を行っていることから、個々の意欲に寄り添った育成姿勢がうかがえる。一方、こうした研修や支援が各職員の成長段階や課題とどのように結びついているかを整理することで、育成の方向性がより明確になる余地も認められる。今後は、個々の学びを組織全体で共有する工夫により、育成効果の深化が期待される。		
(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
[20] II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		a
<b>&lt;コメント&gt;</b> 実習生の学びを段階的に支える育成体制を整備し積極的に取り組んでいる 本園では、実習開始前のオリエンテーションにおいて、園の理念や方針、子ども・保護者への関わり方、服務規律等を丁寧に説明し、実習に臨むための基盤作りを行っている。また、実習期間中は担当保育士が中心となり、日々の振り返りを通して疑問や不安をその日のうちに解消する体制が整えられている。さらに、実習後半には実践保育の機会を設け、自ら計画した保育を経験することで、学びを実感として深められる工夫がなされている。こうした育成の流れは、将来の保育者育成に寄与する取組として評価でき、今後も継続的な実践が期待される。		
<b>3 運営の透明性の確保</b>		
(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者評価結果
[21] II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		a
<b>&lt;コメント&gt;</b> 公的な情報公開制度を活用し運営の透明性確保に努めている 本園では、法令等に基づく公的な情報公開制度を通じ、運営主体や事業内容、財務状況等について必要な情報を適切に開示し、運営の透明性確保に取り組んでいる。また、外部による監査や点検を受け、その結果を踏まえた運営が行われている点も評価できる。一方、公開されている情報が園の運営方針や日々の保育実践とどのように結びついているかについては、利用者にとって理解しにくい側面も想定される。今後は、公開情報の内容や背景を分かりやすく整理し伝える工夫を重ねることで、園運営への理解と信頼がより一層深まることが期待される。		
[22] II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		b
<b>&lt;コメント&gt;</b> 内部管理と情報公開を通じ公正性と透明性を確保する運営が行われている 本園では、事務・経理や職務分掌について年度初めに職員へ説明を行い、役割や責任の所在を明確にした運営がなされている。また、外部による定期的な監査を受けることで、経営・運営の適正性を客観的に確認する体制が整えられている。さらに、施設運営に関する情報を公開し、利用者や関係者がいつでも確認できる環境を整備している。一方で、こうした取組の趣旨や背景が職員・利用者にとどの程度共有されているかについては、今後さらに丁寧な説明や対話を重ねることで、透明性への理解と信頼が一層高まることが期待される。		

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者評価結果
【23】 II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<コメント> 地域との関わりを通じ子どもの生活経験を広げる取組に、改善の余地が認められる 本園では、地域で実施される子育て支援行事等の情報提供や、行政主催の取組への参画を通じ、地域との関わりを持つための一定の活動が行われている。一方で、園としても、こうした取組が子どもの生活経験の広がり十分に繋がっているかについては、改善の余地があるとの課題意識を有している。今後は、地域との関わりを単なる情報提供や参加にとどめず、子どもの育ちの視点から取組の目的や内容を整理することで、園ならではの地域連携の在り方がより明確になり、子どもの生活の幅を広げる実践へと発展していくことが期待される。	
【24】 II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<コメント> 学童ボランティア受入れに関する基本姿勢と体制が整理されている 本園では、学童ボランティア受入れに関する基本的な考え方や活動内容、留意事項を整理した資料を整備し、受入れにあたっての体制を明確にしている。学童児童によるボランティア受入れ実績もあり、子どもや職員双方に配慮した関わりを前提とした運用が行われている点は評価できる。現時点では体制面は概ね整っており、無理のない形での受入れが実施されている。今後も受入れを継続していく中で、状況に応じた確認や見直しを行いながら、園の方針に沿った運用を重ねていくことが期待される。	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
【25】 II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
<コメント> 必要な社会資源を把握し関係機関と連携する体制が整えられている 本園では、虐待が疑われる事案への対応や、行政・児童相談所等からの照会に対し、園長を窓口として一元的に対応する体制を整えている。対応の窓口を明確にすることで、情報の錯綜を防ぎ、関係機関との連絡や調整を円滑に行える仕組みが構築されている点は評価できる。また、個別記録等を活用し、状況に応じた適切な情報共有が図られている。今後も、園として必要な社会資源を把握した上で、関係機関との連携を継続し、子どもと家庭を支える体制を安定的に維持していくことが期待される。	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
【26】 II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<コメント> 地域福祉ニーズを意識し関係機関と連携を図る姿勢が認められる 本園では、園長会や保幼小連絡協議会、運営委員会等への参画を通じ、地域の福祉動向や子育てを取り巻く状況の把握に努めている。また、運営や事業報告の場を活用し、地域課題について共有する姿勢も確認できる。一方で、自己評価に示されている通り、地域住民から直接相談を受けたり、福祉ニーズを体系的に整理する段階には至っておらず、今後の検討課題として認識されている。引き続き関係機関との連携を基盤とし、園の役割や関与のあり方を整理していくことで、地域に根差した園運営のさらなる深化が期待される。	
【27】 II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<コメント> 地域貢献への高い自覚を土台とした公益的活動の発展に期待が持たれる 本園は、地域の子どもの育成や貧困対策、まちづくりへの貢献について、現時点では十分に組み立てていないとの自己認識を示しており、この姿勢は地域に対する責任を真摯に捉えている表れといえる。一方で、実習生や高校生の受け入れを通じ、将来の保育者や保護者となる人材に子育てや保育の価値を伝えており、結果として地域の保育力向上に寄与している点は評価できる。今後は、こうした既存の取り組みを基盤に、地域のニーズを把握しながら、園の専門性を活かした公益的な関わりへと発展させていくことが期待される。	

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### 1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	第三者評価結果
<p>【28】 Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 子どもの気持ちに寄り添う保育文化が園内に形成されている 本園では、園内研修を通じて子どもを尊重した保育の考え方を繰り返し確認し、職員間で共通理解を図る取組が継続的に行われている。研修内容は理念や保育指針に基づいて構成されており、日常の保育場面においても、子どもの気持ちに寄り添い、尊厳や人権に配慮した関わりが実践されている様子が確認できる。こうした取組が園全体に浸透していることは、子どもを尊重する保育が理念にとどまらず、日々の実践として定着していることを示すものであり、今後も継続的に大切にいくことが期待される。</p>	
<p>【29】 Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 日常の保育場面において子どもの尊厳とプライバシーへの配慮が定着している 本園では、子どものプライバシーや羞恥心への配慮について、園内研修等を通じて職員間で共通理解を図り、日常の保育実践に反映している。着替えや排泄、休憩場面などにおいても、子どもの気持ちや安心感を大切にされた関わりが継続して行われており、子どもの尊厳を守る姿勢が保育全体に根付いている様子が確認できる。こうした取組は理念や保育指針に基づくものであり、特定の職員に依存せず、園全体として一貫した対応が行われている。今後も現在の実践を大切にしながら、安定した保育の質を維持していくことが期待される。</p>	
(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	
<p>【30】 Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 見学会と多様な媒体を活用し園の姿を丁寧に発信している 本園では、年間を通じ定期的に見学日を設け、利用希望者が実際の保育環境や子どもたちの様子を確かめる機会を確保している。また、入園のしおりやホームページに加え、SNSを活用して行事や日常の保育場面を写真や動画で発信するなど、園の雰囲気や伝わる情報提供に取り組んでいる。さらに、行政窓口へのパンフレット設置や地域向け行事の周知を行うことで、園を知る接点を広げている。外国籍家庭に対しても翻訳機を用いた説明を行うなど、利用希望者の特性に配慮した姿勢がうかがえ、保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。</p>	
<p>【31】 Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 保護者の理解と納得を重視した説明体制が継続的に構築されている 本園では、新年度の開始や進級にあたり、重要事項説明書を用いて全保護者へ説明を行い、同意を得る手続きを丁寧に実施している。説明会は対面での実施に加え、ライブ配信やアーカイブ視聴にも対応しており、参加が難しい保護者への配慮が行き届いている。また、年度途中で保育内容や運営に変更が生じた際には、連絡帳ツールや文書配布を通じて速やかに周知し、園長または理事長名で発信することで責任の所在を明確にしている。こうした説明の積み重ねにより、保護者が安心して園の方針を理解し、円滑な保育の継続につながっている。</p>	
<p>【32】 Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 子どもと保護者の安心を重視し、これを軸に保育の継続性へ丁寧に配慮している 本園では、入所時には年齢や保育歴に関わらず「お試し保育」を実施し、保護者と相談しながら時間や内容を柔軟に調整することで、子どもが新しい環境に安心して移行できるよう配慮している。また、卒園に向けては外部講師による講演や個別面談を通じ、就学への不安や期待を共有し、個別カリキュラムの作成につなげている点は評価できる。一方で、こうした関わりを継続的に引き継ぐ観点からは、要点を整理した文書化を行うことで、対応の一貫性や職員間の共有がより図られることが期待される。</p>	
(3) 利用者満足の向上に努めている。	
<p>【33】 Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 柔軟な面談で保護者の悩みに寄り添う支援が園と家庭双方の成長環境を整えている 本園では、保護者との信頼関係を深め、共に安心して子育てができる環境づくりを大切にしている。そのため、日々の送迎や連絡帳を通じて保護者の悩みや不安を汲み取り、必要に応じて速やかに面談の場を設けるなど柔軟に対応している。例えば、怪我の報告をきっかけに育児の悩みを聞き取り、面談で子どもの存在を認める声かけの大切さを共有して支援につなげた事例もある。こうした個々の状況に深く寄り添う姿勢が、園と家庭の双方において、子どもの健やかな成長を支える安定した養育環境の構築につながっている。</p>	

(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

【34】 Ⅲ-1-(4)-①  
苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。

b

【判断した理由・特記事項等】

保護者の声に真摯に対応することで、信頼関係を構築している

本園では、保護者との対話を重視し、寄せられた意見をより良い園運営に活かすことを大切にしている。そのため、日頃から意見や要望を気兼ねなく伝えられる環境を整えるとともに、どのような声にも誠実に向き合う体制づくりに努めている。具体的には、苦情解決の手順を入園時に資料を用いて丁寧に説明するほか、玄関には意見箱を常設して常に声を受け付けている。また、実際に要望があった際には、相手の立場に立って真摯に対応することを徹底している。こうした誠実な対応の積み重ねが、保護者との信頼関係の構築につながっている。

【35】 Ⅲ-1-(4)-②  
保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。

b

<コメント>

普段と異なる子どもの姿を共有し共に環境を見直す姿勢が安心感を育んでいる

本園では、子どもの日々の言動から内面の小さな変化を丁寧に汲み取ることを大切にしている。こうした考えのもと、普段と異なる様子が見られた際には保護者と速やかに情報を共有し、受容的な姿勢で家庭での様子にも耳を傾けている。例えば、子どもが普段使わない否定的な言葉を発した時には、その事実を伝えるだけでなく、園や家庭で何か環境の変化がないか共に振り返る機会を持った。こうした日頃の対話を通じて家庭との連携を深める取り組みが、子どもの情緒の安定を図り、安心して成長できる環境を整えることにつながっている。

【36】 Ⅲ-1-(4)-③  
保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。

b

<コメント>

定期的な対話の場で小さな変化を共有し子どもの育ちを支える体制を整えている

本園では、子どもの健やかな成長を支えるため、日常の中にある些細な変化も早期に捉え、迅速かつ適切に対応することを大切にしている。そのため、日頃から保護者と対話する機会を定期的に設け、寄せられた相談や意見に対して組織全体で丁寧に向き合う体制を整えている。具体的には、毎日の送迎時における細やかな情報交換に加え、子どもの発達状況や育児に関する悩みを共有する相談会を定期的に開催している。このように、保護者と密に連携を取り合う姿勢が、子どもの成長に必要な兆候を見逃さず、適切な支援を行うための強固な基盤となっている。

(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

【37】 Ⅲ-1-(5)-①  
安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。

b

<コメント>

多角的な視点で安全管理と情報保護を徹底し安心して利用できる環境を整えている

本園では、子どもと保護者が安心して過ごせるよう、安全管理を徹底した環境づくりを大切にしている。そのため、多角的な視点からリスクを想定し、組織全体で細部にわたる安全性の確保に努めている。具体的には、災害や事故防止等の各種マニュアルを整備するほか、日々の消毒と併せて玩具の点検も実施している。また、タブレット端末は使用後の事務所返却を義務付け、情報管理も厳格に行っている。このように、様々なリスクに対し安全対策を徹底する姿勢が、保護者からの信頼を高め、誰もが安心して利用できる園運営の実現につながっている。

【38】 Ⅲ-1-(5)-②  
感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。

b

<コメント>

感染症対策の徹底と家庭との連携で子どもの健康を守り続けている

本園では、感染症予防を中心とした健康管理を大切にしている。その一環として、職員が常に適切な判断を下せる体制を構築するとともに、家庭とも緊密な連携を図っている。具体的には、詳細な対応手順を記したマニュアルを整備し、日頃から子どもが自ら手洗いやうがいを行う習慣が身につくよう丁寧に支援している。さらに、最新の流行状況を保護者に速やかに周知し、園と家庭が一体となって予防に努めている。このように多角的な対策を講じることで、集団生活における病気の拡大を防ぎ、子どもの健康な体格を育む環境を整えている。

【39】 Ⅲ-1-(5)-③  
災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。

a

<コメント>

災害時の迅速な避難体制を構築し保護者と共に安全意識を高める訓練を行っている

本園では、災害時における子どもの安全を最優先に考え、職員一人ひとりが迷わず迅速に判断できる体制づくりを大切にしている。有事の際に冷静に行動できるよう、具体的な役割を定めたマニュアルを整備し、日々の訓練を通じて避難経路の確保や誘導手順を徹底している。また、保護者が参加する訓練機会を設けることで、園と家庭が共通の危機意識を持って協力し合える環境を整えている。このように、職員の動きを明確化し定期的な訓練を重ねる取り組みが、不測の事態においても子どもたちを守り、適切に行動する力の土台となっている。

## 2 福祉サービスの質の確保

(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	第三者評価結果
<p>【40】 Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;  <b>保育の手順を明確に言語化し共有することで職員の意識と保育の質を高めている</b>          本園では、どの職員が関わっても常に一定の質の高い保育を提供できることを大切にしている。そのための指針として、日々の保育手順や留意点を分かりやすく言語化したマニュアルを作成し、共通認識の形成に努めている。具体的には、登園から降園、食事や遊び、排泄といった生活のあらゆる場面について、子どもの育ちに必要関わり方と環境の整え方を明文化し、全職員に配布している。こうした目指すべき姿を明確に示す取り組みが、職員が迷いなく安心して子どもに向き合える環境を作り、園全体の保育の質を底上げする土台となっている。</p>	
<p>【41】 Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;  <b>定期的な振り返りと改善で「子どものため」の保育を追求し続けている</b>          本園では、常に「子どものため」を最優先に考え、保育の質の向上を追求し続けることを運営の柱として大切にしている。その実践として、日々の活動を客観的に振り返り、より良い支援のあり方を組織的に検証する体制を整えている。具体的には、園長や主任らが集まる会議を毎月開催して保育内容を見直すほか、年度末には各種マニュアルの改訂も行き、手順の形骸化を防ぐ点検を徹底している。このように、広い視野で取り組みの意義を常に問い直し続ける姿勢が、子ども主体の保育を支える基盤として着実に機能している。</p>	
(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	
<p>【42】 Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;  <b>計画の定期的な見直しと組織的な支援が一人ひとりの最善の育ちを支えている</b>          本園では、子ども一人ひとりの特性に応じた最適な関わりを追求し、その成長を支える環境づくりを大切にしている。そのため、家庭からの情報を基に個別の計画を立案するだけでなく、組織全体でその妥当性を検証する仕組みを確立している。具体的には、アセスメントシートから導き出した目標や支援内容について、担当職員だけでなくリーダー層も含めて定期的に振り返り、多角的な視点で改善を図っている。こうした担当者任せにせずチームで保育を見直す体制が、個々の可能性を引き出す質の高い環境の整備につながっている。</p>	
<p>【43】 Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;  <b>振り返りと改善を繰り返す体制が保育の質の向上につながっている</b>          本園では、子どもが毎日の流れを見通し、安心して過ごせるルーティンを維持することを大切にしている。そのため、固定化された日課を軸に据え、日案を作成しない代わりに週単位での振り返りを実施している。具体的には、午睡の時間などを活用して担任同士が話し合い、その内容を職員会議で園全体に共有している。この際、リーダー層からの助言を反映させながら、柔軟に保育計画を更新している。このように、現場の気づきを迅速に環境構成や援助に活かす仕組みが整っており、子どもが主体的に生活を営む力の育成に寄与している。</p>	
(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	
<p>【44】 Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;  <b>振り返りノートを活用による情報共有が園全体の透明性と保育の質を高めている</b>          本園では、各クラスでの実践や課題を園全体で正確に共有し、組織として学び合う文化を大切にしている。そのため、形式的な会議録や計画書の作成に留まらず、現場の生の声を可視化し、風通しの良い職場環境を整える仕組みを構築している。具体的には、担任同士の対話や活動の改善案を記録する「振り返りノート」を活用し、日々の気づきや安全面の配慮事項を詳細に記録している。こうした記録を通じてクラスの考えを透明性高く共有する取り組みが、職員間の相互理解を深め、園全体で安全かつ質の高い保育を実践する力につながっている。</p>	
<p>【45】 Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;  <b>厳格な情報管理と事務所保管の徹底が家庭の安心と信頼を支える基盤となっている</b>          本園では、子どもに関する情報を適切に取り扱うことは信頼の基本であると考え、個人情報の保護を大切にしている。そのため、日々の成長記録や活動内容を園全体で共有しつつ、情報の持ち出しや紛失を防ぐための厳格な管理体制を構築している。具体的には、個人情報記載された書類は、勤務終了時に必ず事務所に返却することを義務付け、タブレット端末も使用時以外は事務所で一括保管している。このように、園の基盤となる情報の取り扱いを全職員が徹底する姿勢が、保護者が安心して子どもを預けられる環境を整える力となっている。</p>	

### 第三者評価結果

事業所名：社会福祉法人常照会 慈光保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a

<コメント>

**園全体の方向性を共有し判断基準を明確にすることが建設的な保育の実践に繋がっている**  
 本園では、あらゆる場面で「子どものため」を最優先の判断基準とし、保育の質を追求し続ける姿勢を大切にしている。その一環として、園全体が目指すべき理想の子ども像や方針を定めた「全体的な計画」を作成し、職員全員の道しるべとしている。具体的には、各クラスの目標や教育・養護の重要ポイントを明確に言語化し、日々の環境構成や関わり方の指針として活用している。このように、園が進むべき方向を組織全体で共有する取り組みが、職員間の対話を深め、より良い保育に向けた建設的なアイデアを生み出す源泉となっている。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	b

<コメント>

**日々の活動をルーティン化し見通しを持てる環境を整えることが自立を促している**  
 本園では、子どもたちが心穏やかに過ごせるよう、日々の生活リズムが安定することを大切にしている。そのため、乳児期から一日の流れをルーティン化し、子ども自身が見通しを持って主体的に活動できる環境を整えている。具体的には、毎朝の戸外遊びから室内の集中した遊び、食事、午睡へと至る一連の流れを固定化し、雨天でも屋根付き園庭で変わらず活動できるよう配慮している。こうした日課の定着により、子どもたちは保育者の指示を待たずとも、次に行うべき活動を自ら考えて行動する力を育てている。

<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	b
--	---

<コメント>

**多角的な視点による子どもの理解と組織的な共有が最適な個別支援を支えている**  
 本園では、一人ひとりの内面を丁寧に汲み取り、受容的な関わりを通じて子どもが安心できる環境を整えることを大切にしている。そのため、多角的な視点で個々の育ちを捉えられるよう、担任同士が毎週必ず保育を振り返り、対話を重ねる体制を構築している。そして、各クラスでの気づきを週一度の職員会議で全体共有し、リーダー層の助言も交えながら組織全体で理解を深めている。このように、職員が広い視野を持って個性を尊重し合う姿勢が、子ども一人ひとりに寄り添った個別最適な関わりを実現する土台となっている。

<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

**育児担当制による継続的な関わりが子ども一人ひとりの生活習慣の自立を支えている**  
 本園では、子どもたちが健康な生活の基礎となる習慣を無理なく身につけられる環境づくりを大切にしている。そのため、特定の保育士が継続的に関わる「育児担当制」を導入し、一人ひとりの発達段階に合わせた手厚い支援を行っている。具体的には、手洗いや着脱、食事、排泄などの場面において、担当職員が個々のペースを尊重しながら順番に丁寧な関わりを持つことで、情緒の安定と自立を促している。このように、職員の固定化と組織的な配慮により築かれた安心できる関わりが、子どもたちが自ら考え行動する力の土台となっている。

<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
--	---

<コメント>

**発達に応じた豊かな遊びの選択肢が、自ら考え行動する力を育てている**  
 本園では、子どもたちが自分で考え行動できる環境を用意し、主体性を育むことを大切にしており、豊かな遊びの環境を整えている。各保育室には、様々な遊びのコーナーが設置され、コーナーの種類と内容も発達に合わせてデザインされている。例えば、乳児クラスには、ままごとや構成遊び、机上遊び、運動遊びを常に子どもが選択できる環境を整えている。また、幼児クラスでは、けん玉などの伝承遊びやルールのある遊びも増やしている。さらに、年長だけの空間も設けられており、発達に応じた、豊かな選択肢が、子どもたちの主体性を育てている。

<p>A-1-(2)-⑤</p> <p>【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

**受容的な関わりを通じて子どもの心を満たし、遊びに向かう意欲を育てている**  
 本園では、子どもたちの心の安定こそが意欲的な活動の土台であると考え、一人ひとりに寄り添う受容的な関わりを大切にしている。こうした理念のもと、深い愛情表現を通じて自己肯定感を育むことで、子どもが自発的に興味を広げられる環境づくりに努めている。具体的には、日常的に温かな言葉かけを継続するほか、遊びに集中できない子には丁寧に寄り添い、まずは心の充足を図る支援を実践している。このように、情緒の安定を最優先にする関わり方の積み重ねが、子どもの知的な好奇心を引き出し、自ら考え集中して遊び込む力へとつながっている。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

**適切な距離感と関わり方を職員間で共有し子どもの自立心を育んでいる**  
本園では、子どもたち一人ひとりが、安心感の中で自立心をはぐくめることを大切にしている。そのため、一人ひとりの気持ちに寄り添い、受容的に関わることを大切にすると同時に、職員の関わりが子どもたちの依存心を引き出してしまわないよう配慮している。例えば、以前は子どもが泣いていたら無条件で抱き上げてしまうことも多かったが、職員間で話し合い、「なぜ泣いているのか」に対して対応する重要性を確認し合った。このように、自立に必要な支援を問い直し続ける姿勢が、子どもの自立を支援するための確かな土台となっている。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

**遊びの環境構成と心の充足を支える関わりが子どもの豊かな意欲を引き出している**  
本園では、子どもたちの心が満たされ、主体的に遊びに向かう中で学びが得られる環境づくりを大切にしている。そのため、自発的な興味を引き出す仕掛けを用意するだけでなく、一人ひとりの心理状態に合わせたきめ細かな支援を行っている。具体的には、幼児クラスでけん玉大会を企画し、期待感や見通しを持って取り組めるよう、職員も共に楽しみながらコツを伝えている。また、遊びに心が向かない子にはスキンシップで情緒の安定を図り、安心して過ごせるよう配慮している。こうした安心感と意欲を支える関わりが、自ら学びを深める成長の基盤となっている。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
---	---

<コメント>

**多様な個性を尊重した遊びの環境構成が子どもの居場所づくりと自己発揮を支えている**  
本園では、子ども一人ひとりの発達や個性を把握し、自分らしさをのびのびと発揮できる環境づくりを大切にしている。そのため、子どもが自らの意思で選択し、主体的に動ける環境を整えている。具体的には、戸外・室内を問わず常に複数の遊びの選択肢を用意し、興味のある活動や得意なことに関心を持って取り組めるよう配慮している。また、一つの遊びを終えても、次の遊びがすぐに見つけられる環境でもあり、多様な個性を持つ子どもたちが自分の居場所を作れるよう支えている。こうした豊かな選択肢が、個々の自己発揮を促す確かな土台となっている。

<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
---	---

<コメント>

**長時間保育を利用する子どもが、のびのびと安心して過ごせる環境が整えられている**  
本園では、長時間保育を利用する子どもたちが、心身ともにゆったりと安定して過ごせる環境づくりを大切にしている。合同保育の時間帯においても、誰と何を遊ぶかを自ら選択できる主体的な環境を維持しつつ、個々の疲れや体調に合わせた配慮を行っている。兄弟姉妹と一緒に遊んだり、休息したい時にいつでも横になれるクッションマットを設置したりしている。特に乳児は、個別のベッドでいつでも眠れる体制を整えている。このように、子どもの意思やリズムを尊重する柔軟な対応が、長時間の園生活における深い安心感に繋がっている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>

**就学への期待を高める活動と保護者への丁寧な助言がスムーズな移行を支えている**  
本園では、子どもたちが就学後も安心して生活できるよう、活動の工夫と保護者との対話を大切にしている。小学校との交流会では、一年生と共に伝承遊びなどを楽しみ、進学への期待を膨らませる機会を設けている。また、読み書きに親しむ「鉛筆で遊ぼう」の時間を通じ、遊びの延長で文字への興味を育んでいる。併せて、保護者面談では家庭で子どもにプレッシャーを与えずに配慮を伝え、親子で前向きに就学を迎えられるよう支援している。こうした園と家庭が連携した取り組みが、子どもたちの卒園後の豊かな生活を保障する確かな一歩となっている。

<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
---------------------	----------------

<p>A-1-(3)-① 【A12】 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	b
---	---

<コメント>

**子どもたちが自分の健康を自分で守れるよう衛生的な生活習慣の定着を支援している**  
本園では、子どもたちが自身の健康に関心を持ち、自らの体を大切にする意識を育めるよう、日々の生活習慣の定着を支援している。日常の保育では、子どもが自発的に衛生的な習慣を身につけられるよう、一人ひとりの歩みに合わせた丁寧な手洗いの援助体制を整えている。また、日々の戸外遊びを通じて、のびのびと体を動かしながら、季節の移り変わりの中で暑さ寒さに負けない丈夫な体づくりを推進している。このように、日々の生活を通じた細やかな関わりが、子どもたちが生涯にわたって自身の健康を自ら守り抜く力の土台となっている。

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
--	---

<コメント>

専門的な検診結果の共有と家庭との連携が子どもの健やかな成長を支える基盤となっている  
本園では、子どもたちが健やかに成長できるよう、園と家庭が一体となった保健活動を大切にしている。その一環として、毎月の身体測定に加え、園医による内科検診や歯科検診を定期的実施している。検診では、身体発育や栄養状態、脊柱・四肢の所見、歯列の状態など多角的な項目を確認し、その結果を詳細な記録として保護者へ共有している。こうした専門的な視点による健康状態の可視化と家庭との密な情報共有が、園と家庭双方で子どもの健康を守るための共通理解を深め、生涯にわたる健康な生活の基礎を育む力となっている。

【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>

専門職の連携と徹底した誤食防止策によりアレルギー児の安全な食生活を守っている  
本園では、子どもの命と健康に直結するアレルギー疾患に対し、万全の管理体制を構築することを大切にしている。医師の診断に基づき、保育士・栄養士・看護師が保護者と面談を行い、「アレルギー疾患生活管理指導票」に沿った個別の対応方針を策定している。現場では、専用のトレーや食器を用いて視覚的に識別を明確にするほか、食事の搬送経路を分け、専用のテーブルで喫食するなど、誤食を未然に防ぐ手順を徹底している。このように、各専門職が緊密に連携し、厳格な確認作業を重ねることで、どの子どもも安全に楽しく食事に親しめる環境を保障している。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
------------	---------

【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b
---	---

<コメント>

無理強いない関わりと興味を促す工夫が子どもの「食べたい」気持ちを育てている  
本園では、生涯にわたる豊かな食生活の基礎となる「食べることの楽しさ」を実感できる環境づくりを大切にしている。そのため、大人が完食を無理強いするのではなく、子どもの安心感と主体的な意欲を尊重する関わり方を職員間で共有している。具体的には、食材や調理にまつわる絵本の読み聞かせなどを通じて、子どもが自ら食べ物への関心を深め、「食べてみたい」と思えるような働きかけを工夫している。このように、自分のペースで食事を楽しめる環境を整えることが、食への前向きな意欲を育み、食べることが大好きな心を育む力へと繋がっている。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
--	---

<コメント>

個々に合わせた食事量と継続的な援助が完食する喜びと安心感を支えている  
本園では、子どもたちが安心して食事を楽しめるよう、個々の状況に合わせた環境づくりを大切にしている。幼児クラスでは、子どもが「完食できた」という達成感や喜びを味わえるよう、一人ひとりの当日の体調や食欲に合わせて担当職員が配膳量を調節している。また、育児担当制を活かし、同じ職員が継続的に食事を共にする体制を整えることで、食具の使い方やマナーについても個々の発達段階に応じた最適な支援を行っている。このように、自分のペースを尊重される安心感の中で進める食文化の形成が、子どもたちの健やかな食習慣の自立を支えている。

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
------------------	---------

【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b
--	---

<コメント>

保護者の状況に寄り添った対話を通じて家庭と共に歩む子育て支援を実施している  
本園では、園と家庭が協力し子どもの成長を支えるために、保護者との信頼関係を築くことを大切にしている。単に園の考えを伝えるのではなく、それぞれの家庭状況や保護者の心情に寄り添い、無理なく取り組める具体的な助言を心掛けている。例えば、「寝る前のハグ」といった情緒的な触れ合いを提案することもあれば、時間をかけてじっくりと絵本を読み聞かせることを勧めることもある。このように、保護者一人ひとりの背景を見極め、共に喜び合える関わりを積み重ねることで、子どもを取り巻く家庭環境がより豊かなものになるよう支援している。

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
-----------------	---------

【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
---	---

<コメント>

園での成長の姿を共有し保護者が安心して子育てに向き合えるよう支えている  
本園では、保護者が安心感を持って子育てができるよう、園での子どもの姿を多角的に共有することを大切にしている。日々の健康状態や成長の軌跡を具体的に伝えるため、専門医による検診結果を詳細な表にするなど、目に見える形で情報共有を行っている。また、送迎時の対話では、園でのエピソードを伝えることで、家庭では見えにくい子どもの一面を共有している。さらに、保護者の悩みには担任だけでなく園長や主任も柔軟に対応し、園全体で支える体制を整えている。こうした継続的な発信が、子どもの成長と共に喜び合う信頼関係につながっている。

【A19】 A-2-(2)-②  
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

b

<コメント>

細やかな視診と気づきを大切に子どもの権利と健やかな生活を組織的に守っている

本園では、子どもの健やかな成長と権利を保障するため、虐待の未然防止と早期発見・早期対応に努める体制を整えている。日々の登園時には、丁寧な視診を通じて傷やあざの有無を確認するだけでなく、衣服の清潔感や発せられる言葉の変化など、子どもの発するサインを多角的に受け止めるよう心掛けている。こうした日常の関わりの中で生じた小さな違和感も、必要に応じて関係機関との連携につなげる体制を構築している。このように、一人ひとりの変化に敏感であり続ける姿勢が、子どもの安心・安全な生活と明るい未来を守る確かな基盤となっている。

### A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

A-3-(1)-①  
【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

b

<コメント>

振り返りと対話の場を通じて職員の思考力と発信力を高め、保育の質の向上を図っている

本園では、保育の質を高めるためには、職員一人ひとりが自らの実践を言葉にする力が不可欠であると考えている。そのため、毎週の振り返りや会議の場において、自身の気づきや想いを表現する機会を大切にしている。具体的には、クラス担任が週単位で話し合い、新たなアイデアや安全管理策を職員会議で共有している。また、外部研修で得た学びを園内研修として再構成し、自らの言葉で伝達する体制も整えている。こうした「経験を言語化する」積み重ねが、職員の専門性を育むとともに、より良い保育を実践するためのアイデアの源泉となるだろう。